

発足 38 年 県北支部活動 休止報告と引き続きのご支援を

診療報酬改定対策など継続して実施予定

会員の皆さん、ご協力ありがとうございました

支部長 荒木長太郎



平素より長崎県保険医協会県北支部の活動に先生方のご理解、ご協力を頂き誠に有難うございます。私、荒木が支部長を務める様になって以降、医科は1名、歯科が2名で運営してきましたが、今年12月末で支部長を辞退することとなり後任が見つからないため支部活動を休止するに至りました。

1992年、私は開業すると共に長崎県保険医協会に入会、当時県北の協会活動を主宰されていた大坪守先生の「開業医の医局」という呼びかけに応じ症例検討会にカルテ、レントゲン写真を持って参加、年末の支部忘年会は看護師、事務職員を含めた多数の参加と各医院から持参した景品の抽選で盛り上がった記憶があります。大坪先生、増田先生、大里先生、村島先生と支部長が変わり、村島先生辞任以降は私が支部長を務める支部体制となりました。コロナ禍を機会に支部会議もオンライン会議となりました。この様にオンライン開催が可能となっている現状から支部自

体の存在意義が問われる時に支部活動休止となりました。

しかし、県北の医療環境から地域の課題、問題点等の提示や独自の講演会、勉強会開催等を考える医科・歯科合同の協議の場は必要かと思っておりますので、将来県北支部が再開されることを願っています。

最後に支部運営にあたり、協会事務局の方々に長年に亘り多大なご支援を頂き有難うございました。

休止しても、WEBセミナーなど積極的参加を

会長 本田孝也



今回諸般の事情により県北支部を休止することとなりました。これまで長きにわたり支部活動にご協力いただいた先生方にあらためて御礼を申し上げます。

県北支部といえば、まず頭に浮かぶのが故増田良孝先生です。私が協会の理事に就任したのは1998年です。協会新聞を読み返すと、この年は故哲翁昭邦先生が会長に就任、当時保団連会長の故鮫島千秋先生が協会顧問、そして県北支部世話人だった増田先生が副会長に就任された年です。

増田先生には協会のテレホンサービスでも大変お世話になりました。長崎市と佐世保市は距離的に離れ、交通の便も悪いのですが、年1回の佐世保での理事会、診療報酬改定での点数説明会や講演会などで度々お邪魔しました。コロナ禍で一時往来も途絶えましたが、一方でZoom会議が一般的となり、荒木先生、江頭先生には毎月常任理事会にZoomで参加いただけるようになりました。県北支部は休止しますが、県北の先生方とは引き続き交流を深めてまいりたいと思います。

支部の歩みと活動を振り返って

(1977年6月に協会準備会発足 佐世保市で活動が始まる)

故大坪守先生(天満町開業:当時)が準備会世話人に選出された。先生は協会副会長も務め、初代支部長としても、長きに亘り、協会を牽引した。歯科では82年から国松仁志先生(光月町開業:当時)が理事に就任され、その後支部世話人を務めた。

協会発足の翌年には、新点数検説説明会を佐世保市で開催し、79年7月の第2回定期総会当時の佐世保市の会員は32人(主には医科)、組織率は14.8%だった。発足当時は協会への誤解が多く、会員数は伸び悩むこともあった。

協会発足当初から、診療報酬や保険審査、医業税務といった活動を中心に、85年には医科歯科隣接医学研究会、医科歯科会員懇談会を行い、協会の特性である医科歯科一体の活動を展開している。当時の県北会員は医科51人、歯科48人だった。

協会理事会も不定期だが佐世保市で開催し、長崎の役員との交流を行っている。

「開業医の医局」を合い言葉に研究会活動、支部発足)

86年11月から、開業医が日常診療で遭遇した症例を持ち寄る症例検討会がスタートした。中心は支部発足に携わった先生方であり、2カ月に1回のペースで行われた。参加者の合い言葉は「開業医の医局」で何でも語り合える場が好評だった。深夜22時頃まで議論したり、各科専門医をコメンテーターとして招聘することもあった。症例検討会に限らず、「一般医でよく使われる向神経薬の病理と使い方(3回シリーズ)」などの独自テーマの研究会も盛んに行われるようになった。支部結成の機運が高まったのは症例検討会が核になったことは言うまでもない。

87年4月に正式に支部が発足した。支部長は故・大坪守先生、世話人は故・金子重敏先生(宮町開業)、故・須藤芳夫先生(大潟町開業)、吉田治正先生(相浦町開業:当時)の体制でスタートした。県北会員は医科63人、歯科64人だった。

症例検討会を中心とした活動スタイルは維持した。90年3月に協会に歯科部が発足し、県北でも歯科独自活動を展開した。保健師との懇談や保険でよい入れ歯を求める意見書採択を佐世保市議会に求めるなど、地域医療活動にも取り組んだ。長崎市の老人クラブを中心に行っていた健康講座を佐世保市内でも10回行ったが、諸事情で行政や医師会の活動に委ね、継続を断念した。



症例検討会

(協会創設期から新たな世代へ)

98年7月から故増田良孝先生(天満町開業)が支部長に就任し、協会副会長も歴任した。整形外科の有床診療所で数多くの手術を手がけられ、外来患者数も多く、誰もが認めるスーパーマン的存在だった。

研究会活動は症例検討会中心から、知っておきたい他科の知識や医科歯科連携など、幅広いテーマで行われ、ボウリング大会や納涼ビールパーティーなどの文化的な行事、若手開業医懇談会などの催しも行われた。

労働組合の連合との懇談や佐世保市議との懇談、医療改善を求める自治体意見書採択を求める活動にも精力的に取り組んだ。

2000年に介護保険制度が発足し、介護報酬説明会、主治医意見書の書き方や介護サービスを学ぶセミナーなども取り組み、会員サービスの幅が広がり、2000年7月の県北会員数は医科227人、歯科152人に達した。

時代とともに、パソコンやインターネット講習会、ワインを愉しむ会など、会員のための福利厚生事業も展開し、お逢着落語会やサンセットクルーズ&ビールパーティーは楽しい企画だった。

「モンスターの不自然な食べ物」「世界が食べられなくなる日」など、食や環境問題で映画上映や講演会にも取り組んだことは協会ならではの企画であり、講演会「アフガニスタンから世界を見る」で故中村哲先生が創設したベシワール会と一緒にやって行った貧困や戦争に関する活動も印象深い。

(会員が増えながら成熟した支部へ)

故増田良孝先生の後継に就任したのは大里裕治先生(吉井町開業)、4代目は村島潤先生(佐々町開業:当時)、5代目は荒木長太郎先生(中里町開業)が務めた。

支部発足時から取り組んできた活動のほか、在宅医療点数請求講習会やレセプトオンライン請求義務化講演会、「ジェネリック医薬品の使い方」、「本当は怖い混合診療ーあなたの診療はどう変わるか」、「電子カルテの全てを見せます」、医院承継セミナーなど、医療情勢に敏感に反応しながら、会員のニーズに応える活動を継続させた。

スタッフを対象にした企画も多く、会員サービスの向上に寄与した。近年では性教育やフレイル予防に関する市民公開講演会にも取り組み、協会の知名度アップにも貢献した。支部ニュース「さいかい」では座談会やインタビューなどの取材、会員からの投稿を企画するなど、紙面を充実した。



診療報酬改定説明会



お逢着落語会